



東京通信病院ニュース

Vol. 107

けんこう家族

発行 / 東京通信病院

平成25年1月1日

〒102-8798

東京都千代田区富士見2-14-23

TEL 03 (5214) 7111(代)

http://www.hospital.japanpost.jp/tokyo/

東京通信病院は(財)日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の認定病院です。

認定第J C 2 1 5号

年頭のご挨拶



東京通信病院 病院長
木村 さとし
きむら さとし
哲

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

東京通信病院は今年2月に開院75周年を迎えます。これまでの長きにわたるご支援、ご厚情に厚く御礼申し上げますと共に、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。このような区切りの年を迎えるにあたり、当院の将来に向けた取り組みなどにつき、少し紹介させていただきます。

これまで私たち職員一同は医療者として誠意に

満ちた医療で社会に貢献できるように心掛けて参りましたが、75周年を迎えるに当たり、病院の理念にこの気持ちを盛り込むこととし、「私たちは、患者さんに満足いただける心のもった最良の医療を提供し、社会に貢献します」という表現に致しました。これまでの患者さんやご家族の方々のお役に立ちたいと思う私たちの心の一端を、ささやかながら表現できました」との理念に誠意と

医療を通じて「社会に貢献する」気持ちとを表明し、今年の元旦から更に研鑽して参ります。温かく見守り、ご支援いただきますと幸いです。

昨年、当院で最も見晴らしの良い10階に「患者図書室」を開設しました。図書室「ゆうゆうひろば」を開設できました。

「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

日本人の三大疾患はがん、心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患について、心と体のケアを充実させて参ります。

「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

ので、必要な折にはお気軽にご利用ください。健康や病気について、インターネット検索もできるようになっております。

また、今年9階に「緩和ケア病棟」もオープンする運びとなりました。心と体のケアを充実させて参ります。

「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

は、当院は肺がんも、医学的観点から大腸がんの分野で東京のがん診療連携協力病院の認定を取得しておりますが、前立腺がんや消化器系のがん、乳がん、婦人科系のがん、血液悪性腫瘍などを初めとし、全ての部位の

「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

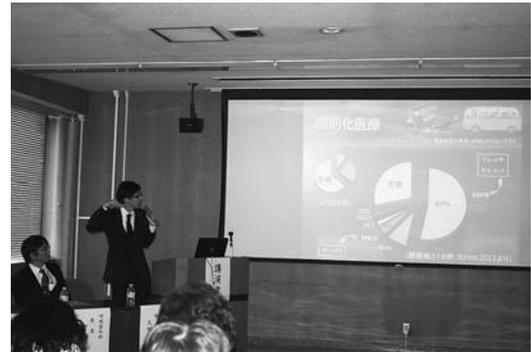
「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

「がん相談」の件数は日増しに増えており、悩みなどを分かち合う「がんサロン」語りあいの会も一段と充実して参りました。他にもお困りのこと、お悩みのことなどがございましたら、先ずは「地域連携・医療福祉相談室」や「がん相談支援室」にお立ち寄りください。

東京通信病院「公開講座」を開催しました

平成24年10月27日 公開講座は、地域の皆様を対象とした講演会であり、地域の皆様にご参加いただき、地域の皆様から「タバコは肺がんのリスクを高める。禁煙することが肺がん予防の近道」であるとの説明され、その後、抗がん剤を併用しながら切除したり、ラジオ波で焼灼したりとあらゆる治療方法を行っています。

講演2部の「大腸がん」については、消化器内科の関川医師から「大腸がん」について、講演1部で「肺がん」、



講演2部で「大腸がん」と2部構成で、内科的側面と外科的側面からそれぞれ診療科の先生方がパワーポイントを用いて、治療方法や予防等、一般の方にも理解しやすい内容の講義でした。

講演1部の「肺がん」については、呼吸器内科の久田部長から「タバコは肺がんのリスクを高める。禁煙することが肺がん予防の近道」であるとの説明され、その後、抗がん剤を併用しながら切除したり、ラジオ波で焼灼したりとあらゆる治療方法を行っています。

講演2部の「大腸がん」については、消化器内科の関川医師から「大腸がん」について、講演1部で「肺がん」、

脳梗塞の治療と発症予防



神経内科
医師
前川 理沙

はじめに

「脳梗塞」とは、何らかの原因で脳の動脈が閉塞し、血液が行かなくなつて脳が壊死してしまふ病気です。脳出血やくも膜下出血を含めた「脳卒中」は、悪性新生物(がん)、心疾患、肺炎に続き国内死因の第4位であり、脳梗塞はそのうちの約60%を占めます。片方の手足の麻痺やしびれ、呂律がまわらない、視野が欠ける、めまいなどが欠ける、めまいなど様々な症状が突然出現し、程度は様々ですが多くの方が後遺症を残します。わが国には、高齢者の治療や介護にかかる負担を社会全体で支援する介護保険制度というものが

あります。脳卒中後の後遺症は、この制度を利用して介護認定を受けている方の20%以上を占め、原因疾患の第2位は認知症です。脳の病気が、3時間以内で投与しなければならず、実際に投与される患者さんは脳梗塞全体の5%以下でした。しかし2012年8月、発症4・5時間以内に適応が拡大し、この治療を受けられる患者さんが今後増えることが期待されています。他にも、脳の血管に直接アプローチし、血栓を絡めたり吸引したりして回収し脳血流を再開させるといった新しい治療があり、そのための器具が近年相次いで日本で使用可能となつています。こういった特殊治療の普及率はまだ低いですが、日本の脳梗塞急性期治療は日々進化しています。

脳梗塞の急性期治療

2005年、米国に遅れること9年でrtTPA(遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ)を用いた血栓溶解療法が日本で承認されました。詰まった血栓を溶かして脳への血流を再開させる注射薬です。脳や消化管などから出血を起こす危険があるため、一定の条件を満たさなければ使用できません。脳梗塞の範囲を小さく抑えられる場合があるため、従来、発症から3時間以内で投与しなければならず、実際に投与される患者さんは脳梗塞全体の5%以下でした。しかし2012年8月、発症4・5時間以内に適応が拡大し、この治療を受けられる患者さんが今後増えることが期待されています。他にも、脳の血管に直接アプローチし、血栓を絡めたり吸引したりして回収し脳血流を再開させるといった新しい治療があり、そのための器具が近年相次いで日本で使用可能となつています。こういった特殊治療の普及率はまだ低いですが、日本の脳梗塞急性期治療は日々進化しています。

急性期の治療の適応が広がったとしても、抗血小板薬、抗凝固療法などの抗血栓療法や脳保護薬など様々な治療法があり、それらは可能な限り早く開始することが望ましいです。おかしいと思う人をおかしいと思う人がおかしな人と思つたら、迷わず119番通報をして脳卒中急性期治療を受ける病院に運んでもらうことを、是非ご検討ください。東京都では、東京都脳卒中救急搬送体制というシステムを導入

しており、救急隊が「脳卒中が疑われる」と判断した場合、東京都脳卒中急性期医療機関に認定されている施設に搬送してきます。さらに、発症後間もない脳卒中が疑われる場合、rtTPA治療の適応となる可能性があると判断されれば、認定医療機関の中でも「rtTPA治療、今ならできますよ」と意思表示をしている病院に絞つて搬送先を探してくれます。当院は東京都脳卒中急性期医療機関に認定されており、平日の日はrtTPA治療も行っています。脳梗塞と一口に言っても様々な原因があり、それぞれに治療法は異なります。高血圧・糖尿病・脂質異常症(高脂血症)などの生活習慣病からくる動脈硬化が原因の「ラクナ梗塞」「アテローム血栓性脳梗塞」や、心房細動という不整脈などが原因となる「心原性脳塞栓」が主なものですが、「その他」に分類される脳梗塞があります。脳動脈の壁が裂けてしまう解離や、感染症・毒性腫瘍に伴うもの、血管の炎症、

血栓を作りやすい自己免疫疾患、血管の先天的・後天的異常、遺伝性の脳梗塞、ピルやコカイン等の薬剤など、様々な病気が隠れていることがあり、50年代半ばまで、図1の頸部の血管や心機能、不整脈などの検査を全例に行うとともに、稀な病態も念頭に精密検査を行い、原因に合わせた適切な治療を行うよう心がけています。血圧が高いと言われたことのある方は、市販の自動血圧計を用いた日頃からの血圧管理が重要です。具体的には、高齢者では140/90mmHg、若年・中年者は130/85mmHg未満が推奨されています。

脳梗塞の発症を防ぐ

脳梗塞の予防は、大きく分けて再発予防である二次予防と、発症を予防する一次予防があります。今回は一次予防のお話をしたいと思います。

糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、高尿酸血症、腎臓病も要因となるため、適切な治療が必要です。高血圧を含めこれらの生活習慣病は自覚症状がほとんどなく、検査をしないと見つかりません。定期的な健康診断をお受けになり、異常を指摘されたら放置せず、ぜひ積極的に治療を開始されることをおすすめします。血圧が高いと言われたことのある方は、喫煙、大量の飲酒も重要な要因です。脳卒中の要因となる病気を治療することは、心筋梗塞などの心血管障害の予防にもつながります。また、運動や入浴による発汗や夏の暑い日の脱水は、脳

梗塞の原因となることがあり、適切な水分補給が重要です。魚の油には、エイコサペント酸(EPA)といふ多価不飽和脂肪酸が多く含まれています。EPAは動脈の弾力性保持、血小板凝集抑制作用、脂質異常改善効果などにより、心筋梗塞や脳梗塞等

の予防効果があることが知られています。EPAはイワシ、サバ、サンマ、マグロなどに多く含まれています。毎日の食事で、肉よりも魚をより多く摂るよう心がけることも脳梗塞の予防につながります。脳出血の発症につながる可能性があり、逆に危険

な場合があります。一度で脳梗塞を発症することもあります。心筋細動に加え、高血圧、慢性心不全、年齢75歳以上、糖尿病、脳梗塞の既往のうちいずれか一つ以上を合併している場合、ワルファリンやダビガトランなどの抗凝固療法を開始するよう推奨されています。

当院では、神経内科と脳神経外科が協力しながら脳梗塞の主に急性期治療を行っておりますので、ご不明な点があればご相談ください。

脳梗塞の治療は進歩していますが、何よりも発症しない事が一番です。塩分の摂りすぎに注意し、禁煙し、お酒を控えるために、魚を食べ、定期的に健康診断を受ける。なかなか難しいかもしれませんが、もし思い当たる点があれば少しずつでも、生活習慣を変えてみてはいかがでしょうか。いつまでも健康でありたいものです。

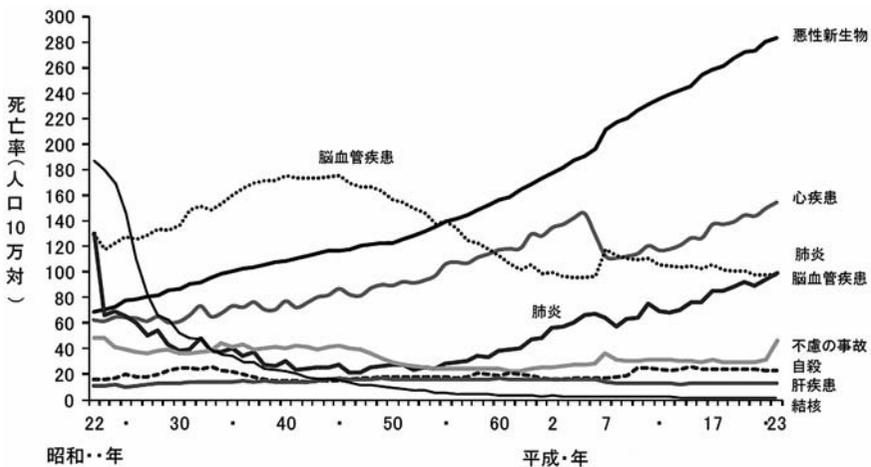


図1. 主な死因別に見た日本の死亡率の年次推移 厚生労働省調べ

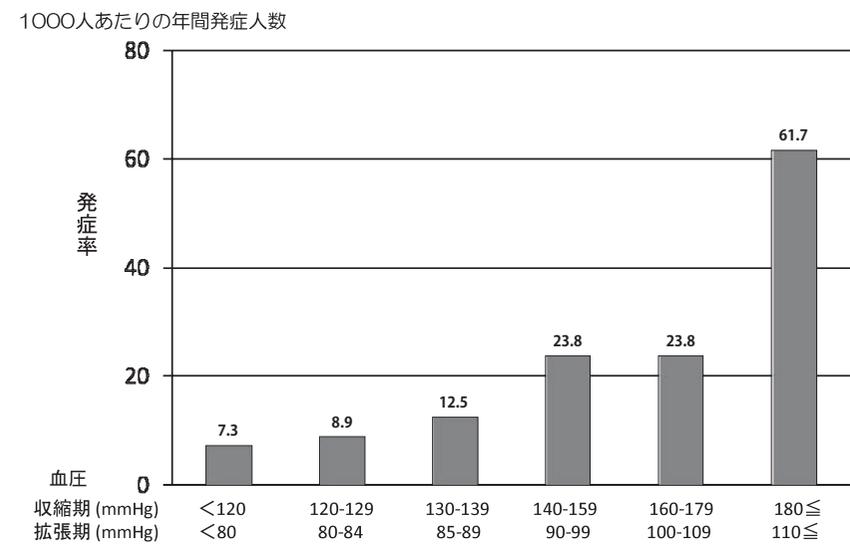


図2. 60歳以上の血圧値別にみた脳卒中発症率 久山町研究 有馬ら 2003年

脳梗塞の予防に、アスプリリンなどの血液サラサラにする薬を内服したほうがよいのではないかとご意見を耳にする機会があります。一度で脳梗塞や心筋梗塞を発症した方の再発予防としては必須ですし、血管に強い狭窄があるなどの特殊な事情によっては必要かもしれません。しかし、日本人は塩分摂取量が非常に多く、欧米人と比較すると脳出血が多い人種であることがわかっています。

ナースステーション

ノロウイルスによる 感染性胃腸炎の予防策



感染管理認定看護師
看護師長
佐藤 明子

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、毎年冬に流行する代表的な感染症のひとつで、潜伏期が短く感染力が強いため、集団感染を起こしやすいのが特徴です。そして、今年には例年に比べ感染性胃腸炎が多く発生しています。今回はノロウイルスの感染経路に焦点をあて、病院や家庭における効果的な予防法について説明いたします。

ノロウイルスは食物や人の手などを介して口から体内に入り腸管に感染しますが、経口摂取するまでの経路は3つに大別されます(図1)。

① もともとノロウイルスを保有する二枚貝(カキなど)を生食または不十分な加熱状態で摂食し感染する。

② 調理者の手やまな板などからノロウイルスに汚染された食品を摂取し感染する。ノロウイルス腸炎の発症者の吐物や便に触れた手を介して感染する。

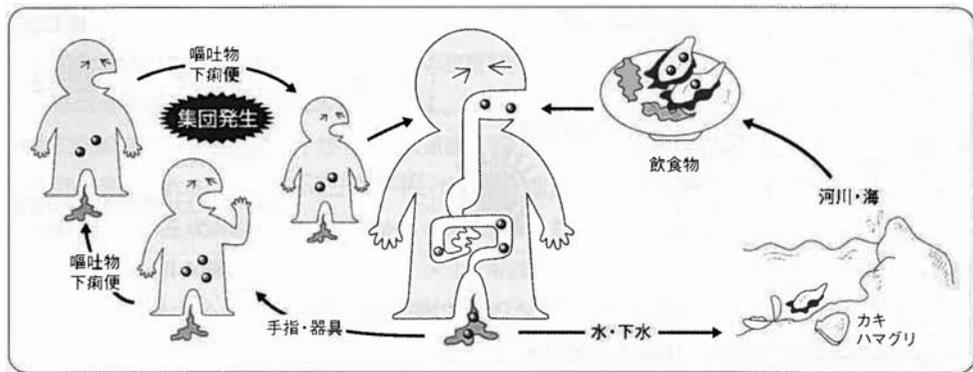


図1 ノロウイルスの感染経路 (藤本 秀士 編著「わかる!身につく!病原体・感染・免疫」南山堂より)



図2 0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液の希釈方法

当院を退職しました
★平成24年12月31日付退職
相馬かおり (皮膚科医師)

☆平成24年11月1日付採用
神経内科 医師
日出山 拓人

☆平成24年10月1日付採用
皮膚科 医師
上嶋 祐太

☆平成24年10月1日付採用
整形外科 医師
川口 航平

☆平成24年10月1日付採用
形成外科 医師
川原 絢子

☆平成24年10月1日付採用
小児科 医師
松川 昇平

☆平成24年10月1日付採用
神経内科 医師
徳重 真一

東京通信病院のご利用案内 ~全科診療予約制を実施しています~

診療科

内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、感染症内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、精神科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、婦人科、小児科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

外来診療日

●月曜日～金曜日(祝日及び年末年始を除く。)

予約の方法・予約受付の時間帯等

●電話での予約…9:00～17:00
●電話番号…03-5214-7381

時間外(急患)診療

●連絡先…03-5214-7768(救急診療室)

診療受付時間

窓口	午前の診療	8:30～11:00まで
	午後の診療	12:30～16:00まで
自動受付機(予約のある方のみ)		8:00～16:00まで

ホームページアドレス <http://www.hospital.japanpost.jp/tokyo/>
メールアドレス admin@tth-japanpost.jp

交通のご案内

